愛國婦人會機關

愛國婦人

每月十日廿五日發行

（定價）一枚參錢五厘一ヶ月分七錢壹三ヶ月貳拾壹錢半年分四拾貳錢壹ヶ年分八拾四錢金圓無遞送料郵券代用（壹錢又は五厘切手）一割增
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麴町區下二番町三十十番地　大日本女學會内　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

電話番町壹千三百三十番

社説

日本人の無形財産（つゞき）

山澤俊夫

日本人の財産は、有形無形共に、歐米の文明國人に比べると、大層貧乏である、然しながら、日本人は忠君愛國と云ふ高尚なる精神に富んで居る、是れが日本人の鉅額なる無形財産であッて、今日の日本は此無形財産で維持せられて居る、と云ふとを、前號に申したが、若しも此財産がなくて、支那人の様に國家に對して冷淡であッたならば、今日の日本は如何なる有様で在いませうか、實に目もあてられない慘狀に陷ッて居るであらうと想像されます。

さて何故に日本人は忠君愛國の精神に富んで居るので在いませうか、其れは他でもない、萬國に類のない御稜威を有せらるゝ　皇室を奉戴して居るからである。　皇室が萬國に卓越させらるゝから、之を奉戴する臣民の精神も亦優れて居るのである。此精神を大和魂とも武士道ともいふのである。小學校の唱歌にも用ゐて居る所の『海行者美都久屍山行者草牟須屍大皇乃敝爾許曾死米可弊里見波勢自』と云ふ萬葉集に在る歌は、上古朝廷守護の武官長であッた、大伴氏の祖先より傳はれる家訓であッて、實に此精神は上古以來今日に至るまで日本臣民の本領となッて居るのである。

故に家庭教育者即ち母たる人が、其子女を訓育するには、此高尚なる精神を養成するとが教育の主眼であると考へます。如何に才能に秀でゝ居ッても、此精神に乏しい人は、日本の眞國民ではない、決して日本國の爲にならない。固より歐米の學藝を輸入して我物とせねばならぬ、島國根性を脱却して宇内の大局に着眼せねばならぬ、然れども此高尚なる精神はあくまでも之を保存して發達せしめねばならぬ。

忠君愛國の精神と云ひ、大和魂と云ひ、武士道と云ひ、種々に語はかはッて居ッても、悉く教育に關する　勅語の御旨にこもッて居るのである。勅語の中に『斯くの如きは獨り朕が忠臣の臣民たるのみならず亦以て爾祖先の遺風を顯彰するに足らん』と仰せられ、又『斯の道は實に我が皇祖皇宗の遺訓にして子孫臣民の倶に遵守すべき所之を古今に通じて謬らず』と仰せられてある。是れ即ち日本開闢以來の御訓であッて、此御旨を厚く奉體すれば、日本臣民の本領を完うすることが出來るのである。世の家庭教育者即ち母たる人は、必ず此の勅語の御旨を暗んじて、幼少の者を訓育する標準とせられんとを切に希望致します。此御旨を奉體して怠るとがないならば、有形無形共に萬國に卓越した富强の國となられるのである。

（をはり）

演説

英國の家庭教育（其二）

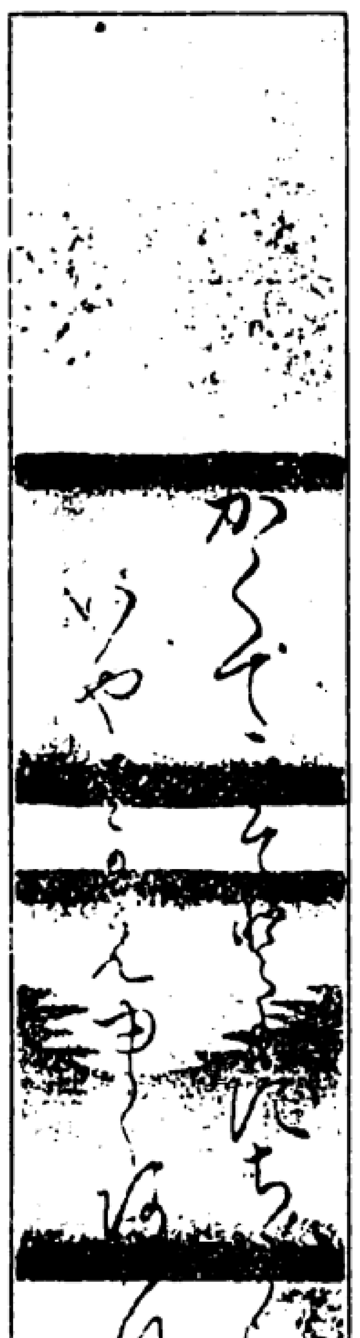
評議員　下田歌子女史演説

東洋では父母に冠詞を附けて嚴父慈母と云ひますが、泰西の家庭では嚴母慈父と云はねばならぬ。父の方が可愛がッて、母の方が嚴しく躾ける。是等も自然に母親は子女を預る責任がありますから、母親に重きをおいて居る。と云ふのは社會が母親に小供を預けても、十分安心だと云ふ迄に、女子が進んだ結果でせう。であるから其家庭の有様は、先づ多くは男女を通じて、小供が少くも尋常中學校又は高等學校を終る時分迄は、其取扱及び行狀は偏に母の責任に屬する様で、なかなか嚴重で一歩も假さない。それで男女交際の自由を說く者などの話は、大變に違ッて居る、決して母親の許なくして獨り行くなど、云ふ様な娘はありませぬ。如何なる交際場裡でも、必ず母と共にするので、母が一緒でなかッたら伯母とか姉とか、凡て家中の婦人が伴ふので、子女が長者に對して服從の義務を執るとは大變嚴格なものである。是は先づ上下に通じてさうだと言って宜う在いますが、一寸私が思出しました事、即ち夫の女皇ヴィクトリヤ陛下の御家庭の事を、一言御話致さうと思ひます。

是は皇室の御家庭の御話で、臣民の家庭には少し縁遠いかの御感じもありませうが、そこは又大層日本とは違ッて、如何にも人爵が貴ばれて居ります。英國の朝廷に入ッての人爵の貴さは、非常な者であるけれ共、併し此サークルに色々種類がありまして、日本の様に單純で無い。であるから或事では、モウ迚も臣民などが聞ても役に立たぬ様に懸隔して居るとも有りますけれども、マア子女の教育などに至ッては、餘り變らないと言ッても宜い。どんな貧乏人の家にも、どんな田舍にても、それが利用せられ應用が出來ると言ッても宜いと思ひます。といふのは、一躰女皇がお育ちになッた時が誠に御不如意であッて、何事も十分でなかッたが、小供に一番藥なのは、物が餘り十分でなくて、そして濟いといふ家庭があれば確に其小供はよくなる。彼のケント公即ち女皇の母君なる御方は、非常な賢婦人でありましたから、英國の上流社會が是程腐敗したならば、到底國が盛になることはむつかしからう、此處で改良しないならばいかぬと云ふ事は、早く母君の御頭に在ッた。處が丁度御家計が不如意であッたから、女皇の御幼時からの有様が傳などにも書いてありますが、夏は洗曝しの着物を被て、冬は隨分木綿の着物や、スコッチの着物をめして在いてになり、唯上衣などは隨分汚れて居るが、下は淸らかなのを被せてあッて、大變質素に御育ちになりました。其質素な嚴格な高潔な家庭に御育ちになッて、あんな女皇が御出來になッたから、女皇親も母君の御家庭の教育の善いと云ふとを、非常に感じて居られたと見えます。或時女皇が侍臣に向ッて嘆息して言はれた、嗚呼私の子女は迚も碌な者になれない、私がいくら心を盡しても、どうも「ロンドン」の宮中などに育てゝは、各國の人が來たり市民が來て、御辭儀をして殿下〳〵と言ふので、是では爲によく無いと思うて、態々最愛の小供を、田舍の甚だ不便利な離宮に引離してやッて、周圍も極く質素にして平民的に教育させ、家庭教師や御附の者にも權力を與へて、君臣などの關係は忘れる程に、少してもいけないとがあッたら叱責してくれよと、言ッて居るけれども、矢張り陛下の御愛子といふとが頭にあるので、どうしても私が臣民から輕蔑を受けて居ッた昔の様な譯にはいかぬ、どうも富貴の子は立派になるとは出來ないといふとを、御嘆息になッたと云ふとです。私も實に高貴の方の子女を教育して見て、本當にさう云ふとを感じます、女皇の嘆息されたのは御尤である。

そうして離宮で御家庭教育をなさるには、あちらの習慣として、臨時の出來事例へば外交が破れた爲に、殖民地が動搖することなどある時は仕方がありませぬが、さもない通常の時には、夏は凡の事を休むやうになッて居る、凡て社會一般の機關が夏は弛まされる様になッて居まして、六月頃から九月頃までは女皇も離宮の方に御出になッて、親しく子女の教育に下り立ちになッて、大變力を御盡しになッた様でありましたが、其餘の時は責任あり信用ある家庭教師に預けて御教育になりました。

（つゞく）



評議員　濱尾作子筆

いたづらにやすき我身ぞはづかしき　くるしむ民の心おもへば　伏見宮

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄書

奥村女史との會見

陸軍步兵少佐　伊豆凡夫

予は從來軍人の遺族が、其僅少なる遺族扶助料の爲に、生活に苦めるを嘆ずる者なりき。昨年以來此問題の爲に奔走し、遺族扶助料増加を主張し、或は其筋に具申し、或は新聞紙上に論じ、或は當路者に說き、或は慈善家に訴へたり。然るに奥村女史亦此問題に滿腔の熱血を濺がるゝを聞き、同女史及び貴婦人等設立の愛國婦人會に、予の調査せる材料を參考に供せし事もありき。故に一度女史と相見て、協る處あらんと希望したりしも、昨年中は其時機を得ざりしが、同會相談役堀內君は、所論の同一轍なる予と女史との會見を媒ちせられたり、時は本年一月の末なりき、夜來の雪は霏々積り來りて、早朝既に三四寸に至りぬ、寒風肌を襲うて、壯者も尙爐を擁するの日なりしなり。予は謂へらく、けふは會見の約束日なるも、此雪にては老齡の女史には困難なるべく、いづれ延期の通知に接するならんと。然るに約束の時間となるや、參謀本部の應接所に、一個の女丈夫は顯はれぬ。聞く女史齡耳順に近しと、而も坐作活潑、議論風發、同論者たる予と數十分の會見、忽ち舊知の如く、予は年來議論を上下したる知己の感を起しぬ。會談の結果は、女史と共に兒玉陸軍大臣を訪問するの必要となり、予は直ちに馳せて大臣官舍に到り、大臣に女史を引見せられんとを請ひぬ。大臣曰く、今日は議會に臨まざるべからず、他日に讓りくれずやと、予之を女史に告ぐ。女史曰く、明日より名古屋方面に遊說に出づ、今日逢はざれば時機を失ふを恐ると。依て予は更に官舍に到り、大臣に說く、大臣曰く、議會臨場迄三十分の時間あり、それにて足らば會見せんと。是に於て予は女史と相伴ひて、大臣官舍に到りぬ、嗚呼此三十分の會見の結果は、一は予の主張せる扶助料增加案の提出を促がし、一は愛國婦人會の爲に、地方高等武官の夫人の入會を促がすの動機となりぬ。大臣との會見終り、相伴て官舍を出でし時、積り雪は五寸を超えたり、雪風面を撲ち寒威骨を透しぬ。予は女史と別るゝに臨み、「此寒さに御苦勞に存じます」と述べたるに、女史曰く「一圖に主張の事を貫かんとす、風の寒き雪の冷き何かあらん」と。これ予が女史と會見の日の事となす。聞く女史今や出て、關西に遊說すと、時漸く暑に向ふ女史健在なれや。

〇海軍茶話　(承前)

海軍大尉　長尾耕作

〇一點の汚塵を止めず　とは英國の海軍で昔からの言ひ傳へてあるのみならず、何れの海軍でも清潔は最も貴ぶ所である。試みに軍艦觀覽の時軍艦の小蒸滊艇に便乘して見給へ、棧橋から小蒸滊艇に移る時、小蒸滊艇の水兵は第一に靴拭ひを差出すに相違ない。艦長でも將官でも決して汚れた靴の儘艇內に這入る事は無い。又每朝早く、前夜外泊した下士卒が通船で本艦に歸る時を見れば、彼等は皆船中で靴を拭ひ、舷門の梯梯に一點の土砂を印することも無い。加之甲板掛士官と稱へる將校は、彼等が不潔の靴で本艦の甲板を踏む事を許さない。斯く淸潔を貴ぶのは決して外見上のみで無く、一週に一度は艦底、諸倉庫等、悉く物品を移動して掃除を行ひ、上甲板は每日必ず水にて洗ひ清めるのである。金具類の塗色してない者、即ち銅・眞鍮の板、又は格子などは、必ず磨粉で磨いて光澤を保續してゐる、硝子は鮮明で、決して曇つた者は無く、倚子・食卓の覆は一週間に一度は必ず取替へるのである。

〇軍艦の副長は一家の主婦なり　每朝兵員の起床に先つて、寢室から起き出て、兵員の臥具を格納所に收めるのに注意し、時として晴天の日、之を空氣に曝すを命ずる事もある。午前に大砲を手入する時には、甲板上は整頓され副長は巡視する。事業を命ずる時には、一々兵員を配分して遺漏なからしめ、總ての兵員を使ふ事業は、副長自ら號令を下し、午食の時食事が食卓に配分せらるれば、副長が巡視を終つて兵員に就食せしめる。午後の事業を終れば、當日の事業の成績を以て、明日の事業日課を考へ、夕方總員の臥具を整へる時には、一齊に號令を以て、釣床を格納所から運び去らしめ、夜に入つて兵員が寢に就くと、艦內を漏れ無く巡視して、火の許の安全・倉庫・鍵鑰の確實・艦內諸般の狀況、艦底の汚水量等を確かめ、倂之にて漸く一日の業務が終ッても、夜中不意に事があれば起き出るし、萬事萬端の監督を行ふ。又兵員が過度の勞働をした時とか、寒氣甚い時、又は雨天に勞働をした時とかに、衛生酒と稱する興奮劑を與へる事、每日酒保の開始等は、皆副長の許可を要するので、艦內數百の兵士が、實に慈母と仰ぐのは副長である。士官・准士官の外出は、皆副長の許可を受けねばならず、士官室の食卓は副長を主座とし、又士官の風紀は此副長の性質品行で良とも不良ともなるのである。

〇軍艦旗は鮮明を貴ふ　陸軍の聯隊旗は、砲彈銃丸の痕跡があつて古色あるを貴ぶさうだが、海軍の軍艦旗は鮮明を貴ぶのである。兎角日本の石炭は煙を出すので、其煤烟の爲、日本産の軍艦で航海中使用する軍艦旗は、直ぐ色が黑くなるが、英國軍艦などは石炭の煤烟が無い爲、其軍艦旗は能く鮮明で、所謂「ホワイト、エンサイン」(白き軍艦旗)の實を示して居る。軍艦旗は國を示すのであるから、日本或は何國と云ふ事を明瞭に示すのは、最も必要であるのみならず、外觀上稍威嚴にも關係するので、之も蓋し一點汚塵を止めずの主義に適してをるのである。試みに橫濱に碇泊する外國軍艦に就て實見すれば、余の示した事實を明かに證明するに違ひない。(嗣出)

童話　鵜のまねをする烏

月廼舎かつら

烏が鵜の眞似をしやうと思ひまして、水の中へもぐッて見ましたが、魚を捕る處ではなく、水に溺れそこなッて苦しがッて居りました。其處に鵜飼に出て休んで居る鵜が、烏に向ひまして、およしなさい〳〵、お前さんには私の眞似は出來ません、私たちの魚を捕る藝は、生れつきなのですから、それはお前さんが幾ら稽古しても出來ません。と笑ひながら申しました。烏は性の惡い鳥ですから、鵜の云ッたとをいまいましく思ひまして、私はお前さんの眞似をしたのではありません、一寸羽を掃除する爲に水をあびたのです。お前さん達の樣に折角魚を捕ッて呑むと、直に咽をしぼられて吐出さゝれて、自分の勝手に食べるとも出來ない樣な、其樣な意氣地のないとを誰が眞似をするものですか。殊に鰻を捕ッて呑む時は、長いから咽に閊へて、大層苦しいさうだ、其故に本來鵜難儀と云ふべきを略して、うなぎと云ふのだと、落語家と云ふ鹿が考へた說ださうな、其樣な難儀なつまらない眞似などは、賴まれても眞平御免ですと申しました。◎

烏がいろ〳〵な事を申しましても、鵜は腹もたてず、徐に申しますには、さうでしたか、水をあびなさるのでしたか、それなら淺い處であびなされば溺れる氣遣がなくッて宜いでせう。成程私は呑んでは吐出さゝれるのです。他から見たら意氣地のない樣に見えませうが、それは仕方がありません。元來私は生きた魚ばかり食べます、お前さんの樣に穢い物でも何でも食るとが出來ません、誠に不自由なとですが、生れつきで仕方がありません。海が荒れたり洪水が出たりすると、幾日も食物のないとがありますが、斯うして鵜飼に使はれて居りますと、年中お腹の工合のよいだけ食物を戴いて居るのです。飼主が年中生きた魚を絶やさぬ樣になさるのは、實に容易な事ではありません。其御恩に報ゆる爲ですから、精出して魚を呑んでは吐くのです。其吐き溜めた魚を、飼主が賣ッて金まうけをされるのです。七八年前の事であッた、讀賣新聞が謎の題を出して解方を募集した事があッた。其時「綾之助の貯金」といふ題があッた。綾之助と云ふのは其頃流行ッた娘義太夫で、此大層貯金をして居ると云ふ評判があッたので、此題が出たのであらう。其時月廼舍先生と云ふ名高い先生?は「綾之助の貯金とかけて。鵜飼と解く。心は。咽でためる。」と解かれたのが秀逸であッたさうな。賤しい娘義太夫でも、貯金をする心がけだけは感心だ。我等は一名烏之鳥とも云ふのであるから、貯金の引合に出されるのは當然です。鵜難儀といふ話は、人を笑はす爲に尤もらしくこじつけたので、本當の事ではないさうな。考へて見なさい、私等は自分が呑んだものを惜げもなく吐出す位だもの、難儀をする樣な食物を意地きたなく食べるものですか。と申しましたら烏は返へす言葉がなくて、カア〳〵と飛んで行きましたとさ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人傳

老女村岡の傳

評議員　下田歌子

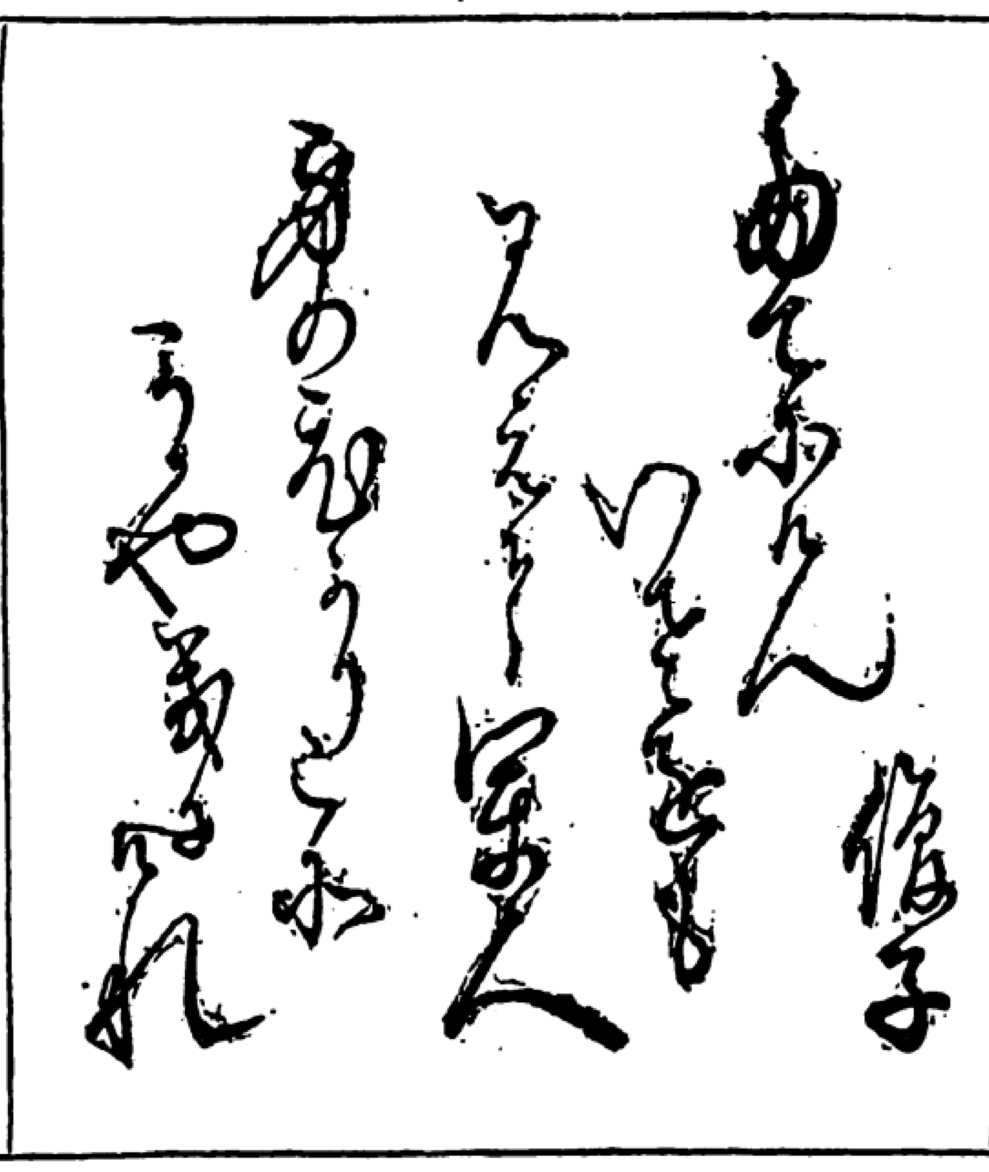
皇政復古は、實に我が朝空前の一大革新なりしなり。内は武家數百の大小名が、數百年の習慣的國法を打破して、一時に其領土を奉還し、外は交りを遠く海外未聞の國に結び、其從來の制度法律より始めて、各般の事、みな其面目を新たにし、從ひて國民、都鄙貴賤共に其衣食住のありさまをさへ、改め更ふる所多くなりもて行きたる、この急變の風潮、兎まれ靜穩に歸着して、今日の世態をかたちづくらんとせし、維新前後の勢ひに、採まれ揺られて、こゝかしこの磯に汀に、打ちあげちれたる玉の數々、光なき普ねからずして、碎けたるものあるべく、眞玉に交りて轉[illegible]深ひし瓦の、中々に全くして、つひに今日に遇ひぬるもあるべし。げにや、國衰へて忠臣あらはる、世の習ひ、年寒からずば、松の操の、衆木に秀づることも知られざるべし。其當時、國歩の患難に遭遇して、世に顯はれぬる、俊傑名士は、擧げて算ふるに暇なきまでなりけんを、其が中には巾幗の婦人中にも、亦甚だ景慕すべき、烈婦賢女をも鑿出しけり。余が心の友なりし、故稅所の刀自が、嘗て舊君島津公の若君につかへまつられし程、彼の有名なる生麥事件の起らんとせし時、公の門出せられんとせしを送りて、

ますら男に、おらぬこの身の、悲しきは、
御供の數に入らぬなりけり。

と打ち歎かれたりし歌を、幼き程に傳へ聞きて、そゞろ其ぬしの慕はしかりしやは。年經て過ひ見參らせつれば、さる雄々しく健氣なる心の在しける人としも覺えず、まことに女しく打ちしづまりて、優にやさしき方ざまにこそは在しましけれ。されば、いとゞ其德をしたふ心の深くなり增りて、何くれ教へを請ひ、問ひ聞き參らせたりつるが、刀自嘗て舊君が息女の近衛公に入輿ありつるに從ひまつりて、公が館に事へ參らせられつる程の事、且つは其同僚なる、かの村岡女史のことを云ひ出てゝは、常に己れはいと及び難き女丈夫にてこそ在しけれと、今も慕はしく、懷かしくは覺え候ふよ、と云れけるよどもを思ひ出てゝ、將た尚其當時のこと知りたる人どもに尋ねなどしつゝ、爰に、女史が略傳を揭げ記すことゝはしつ、其洩れたらんところどころは、いかでよくあきらめ給へるかた〴〵の、補ひ教へて、女史がいみじき忠節の功の長く世に傳はらんことを、助けられよかしとぞ。

近衛公の老女村岡は、實名を矩子と呼べり。洛西嵯峨の大覺寺の宮の家臣、津崎氏が息女なり。幼きより、公の大奧にみやづかへせられき。女史資性英邁俊秀にして、淡泊洒落、敢へて世の常の婦人の如く、猜忌嫉妬の心をさしはさむ等の事なく、君に事へては忠誠、硬直にして、更に巧言令色の媚しきふるまひ無しと雖ども、亦ことに寬裕、溫和、其諫むべき事も、大抵比喩、諷刺を以てし、宏談、婉語の間に於て、知らず〳〵其曲を去り、正に若かしめ奉らんことを勉められけり。斯かれば、其同僚に、其配下に對するも、嚴にして溫、寬にして約、他の言行の善惡邪正は、能く微細に洞察明知すと雖ども、其これを責め、これを懲らさんとすることは、決して苟くも爲すことなく、其これを誡め、これを諭さんとするに當りても、能く物によそへ、事に譬へて、丁寧親切に教へ導きたりしかば、其下に立つ人、みな女史が德を仰がざるもの無かりきとかや。

さても、當時尊攘の說やう〳〵盛んに行はれて、人の心も麻の如く亂れにたる頃、京師にも猶幕府を助けて、開港の論を主張せんとする者、皇家を推して、攘夷の擧を決行せんと欲する人、區々別別に離隔して、親戚、緣者、朋友、知人も、敵となり、味方となり、昨日と變り、今日と移らふ、人の心の頼み難さに、互ひに狐疑を深くして、罪なきに殺し、仇ならざるに傷けらるゝも、また少なからざりけん。すなはち女史が主君なる近衛公は、夙くより勤王の志深く在して、能く先帝の叡慮を助け給へりとぞ、これ然しながら、村岡女史が、能くこれを内より助け參らせて、常に四方勤王の士を導き、巧みに能く内外の氣脈を通じたるによれりといへり。斯くて女史は、其夫人が生家、薩摩公の臣西鄉隆盛、(當時は脫藩して、浪人たりき)、淸水寺の住職、僧忍向等と交はりて、絕えず關東の動靜を伺ひ、又尊王の志士に結びなどして、其が音信、交際を益頻繁ならしめしかば、遂に幕府の爲に探知せられぬ。さるからに、幕吏は官の逮捕狀を齎らし、老女村岡嫌疑の廉ありて、關東に引致する旨を達し、突然女史を捕へたり。事万一顯はれなば、斯かるべしとは、兼てより思ひ設けたる村岡は、更に驚き恐るゝ躰もなく、又わろびれたる形ちもなく、莞爾として捕吏に向ひ「さても、仰山なる人々の振舞かな。左樣に事々しく人騷がせし給はずとも、老いかゞまりたる媼の、又何處へか、逃げ隱れ申すべき、今仕度して參らん、暫らく爰に待ち給へ、御苦勞さまや。」(時に女史、齡すでに七十餘歲なり)と會釋して、急ぎ、事の樣を君へも聞えあげ、且つ同僚にも暇ごひして、「一寸往きて參らんを、宜しう賴みまゐらす」とて、いそ〳〵として、出て行きたるさま、恰も人の里還りなどせんずる時のやうなりかしと、女史が日頃の氣質知りたる人さへ、又今更の事に覺えて、其膽勇に驚き感じ、泣き騷ぐ、女史が侍婢等を誡め、同僚の誰れ彼れ打ち集ひて、其局なる調度ども取りしたゝめ、置かんとしたりしに、兼ねて期したる事やありけん、亡からん後の事迄も、殘る所なく掟て置かれたりけり。さては、假初の旅寢とは、思ひ給はざりけるものを、いかにせば斯くは心の能く落ちつくものぞと、彌舌を卷きてけり。　（つゞく）



評議員　男爵夫人千家俊子筆

詞藻

六月四日與風會臨時會を新宿植物御苑に開かる參集せしもの四十餘人各「夏燈」といふ勅題を賜はりて應制詠進せし歌ども

東久世通禧
夕浪にひれふる魚のかげみえて
火影すゞしき池の釣殿

高崎正風
よも岐阜のともし火の繪の秋草に
まことの虫もやどりける哉

鍋島榮子
すゞしげにかけつらねたる燈火の
花をしたひて蝶もきつらむ

津輕承昭
白かしのしげみをわくる瀧つせに
すゞしくうつる軒のともし火

松浦詮
すゞみする軒のともし火かげふけて
ひかりうかへる庭の池水

大谷光尊
ほとゝきす今一こゑと思ふまに
みいけすゞしくうつる燈火

大原重朝
ほたる火に文よみし世は昔にて
ひらけゆく代のともし火のかげ

綾小路有良
まき水にぬれし芝生にかげみえて
光すゞしき庭のともし火

竹屋光昭
木かくれにかすか〳〵みへて凉しさの
風にもまるゝともし火の影

松平乘承
螢とふ光とみしは若葉さす
庭のこのまのともし火の影

水野忠敬
ともし火の光すゞしくみゆる哉
このみそのふの青葉かくれに

長谷信成
蚊をはらふうちはの風にともすれば
きえんとすなり窓の燈火

阪正臣
たかとのゝ火かげも水にたゞよひて
すゞしくわたる夏の川風

東儀季熙
雨はれて夜風すゞしき御園生の
わをはかくれのともし火の影

小出粲
すゞしくもみゆる燈火夏虫の
みをやくものとおもはれぬ哉

大口鯛二
卯の花の雪見燈籠もうつりけり
よかぜすゞしき池のみぎはに

千葉胤明
夏木立めぐる御池のなかしまに
ともし火きえて日はくれにけり

鈴木小舟
しつのめがこがひのわざやはげむらん
よふけてみゆるなやの燈火

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

○家事要領

◎家事衛生　第一　育兒（つゞき）

一 生母又は乳母の乳、即ち人乳を以て小兒を哺育すると能はざる事情ある時は止むを得ず牛乳又は煉乳を用ゐるべし此外に小兒粉もあれども日本製のものは適當ならず。

一 牛乳を用ゐるには成るべく人乳と大差なからしむると必要なり牛乳は人乳に比すれば蛋白質多くして糖分少なし故に水を加へて之を稀くし砂糖を混じて糖分の不足を補ふべし。

一 牛乳に水を加へて稀める割合は左の表の如くすべし。

生後三個月迄	牛乳一合に水三合の割合
四個月より六個月迄	牛乳一合に水二合の割合
七個月より九個月迄	牛乳一合に水一合の割合
十個月より十二個月迄	牛乳二合に水一合の割合

但し此の稀め方は大躰〻の規則にて小兒成育の有樣により幾分か斟酌を要す。

一 此の牛乳を稀める水は必ず沸し冷しの水を用ゐざるべからず牛乳を水にて稀めたる量一合につき白き角砂糖一個を入るゝを以て糖分の不足を補ふに適當の量なり。

一 牛乳は四季とも必ず煮たてゝ用ゐるべし煮たてるにも煮え上りてより五分間以上煮たてざれば殺菌十分ならずと知るべし。

一 牛乳を小兒に與ふる溫度は人乳と同樣ならしむるを要す即ち躰溫を度とす（攝氏寒暖計三十七度）

一 小兒に與ふる牛乳の分量は其成長に隨ひ漸次增加すべきものにて之を定め難し先づ三四合より成長に隨ひ漸次增して五六合位與ふるを通例とす最初は一回の量四五勺ばかりにて二時間以上を隔て一晝夜に八回程與へ成長に隨ひ一回の量をも一合五勺位にまし時間も三時間以上を隔て度數も一晝夜六回となすべし。

一 哺乳器は最も注意して淸潔にすべし殊に乳首ゴム管を叮嚀に掃除すべし夏の頃は時々曹達にてよく煮るべし小兒の哺み殘しゝ哺乳器の牛乳は必ず捨つべし決して次の哺乳に用ふべからず。

一 煉乳は牛乳に多量の砂糖を混じて之を熱し十分に冷して後眞空にしたる罐に詰めたるものなり故に殺菌十分にして永く保存するも腐敗の心配なきにより生牛乳よりも安全なりとて寧ろ煉乳を可とする說もありされども煉乳は五割五分位も糖分を混じあるものなれば生牛乳に比して消化大に劣れり止むを得ざる限りは未だ成長せざる小兒に之を用ゐるは好ましからぬとなり。

一 煉乳は米國製の鷲印を以て從來最も良品としたれども今日は內國製にて却ッて品も優れ價も廉なきものあるに至れり東京衞生試驗所の分析に據るに福島縣岩瀨御料地にて製する牛印は最も優等品にして鷹印鷲印之に次ぐ煉乳の稀め方は初生兒には最初一個月を溫湯廿二倍とし次の月は廿一倍とし漸次其倍數を減じ一年の終に十一倍とし其後は常に十倍として用ゐるべし。

○裁縫の寸法

◎女服無垢上着

○巾一尺二寸の布を以て女服無垢上着を裁つに袖丈一尺七寸身の丈四尺一寸になせば其用布何程要するかとの積り方並に其式は次の樣に致します。

○積り方は　袖丈一尺七寸と身の丈四尺一寸と裾廻しの一尺五寸とを加へて之を四倍すれば二丈九尺二寸となる之が即ち用布であります。

算式（袖丈 身の丈 裾廻し）(17+41+15)×4=29.2

◎比翼

○巾一尺二寸長さ三丈三尺八寸の布を以て女服廻り無垢比翼を裁縫する時の積り方等は左の通りであります。

○積り方は　裏裾の一尺五寸と表裾の一尺三寸とを加へて之を八倍し次に表の竪褄の二尺五寸と袖口の一尺五寸とを加へ（之を二倍すれば八尺となります）而して又此八尺と裾廻しの八倍二丈二尺四寸と袖の三尺四寸とを加へて用布を知るのであります。但し衿丈並に裏の竪褄と八つ口との切は巾より取るのであります。

算式（裏裾 表裾）(15+13)×8+（竪褄 袖口）(25+15)×2+（袖）34.=（用布）338.

◎女服重ねの引方

○寸法の引方は　身の丈は上着より一分引く時もありますが同じやうな品物ならば引かないでもよいのです又裄丈も之と同じ事であります。袖丈は上着より三分短く袖付は一分引き袖口は同樣です袖巾は八つ口の所にて一分狹く袖付より上は同じです後巾一分前巾は二分つめ抱巾同樣褄下も同じ事であります。衿は巾を同樣に丈を三分短くいたします。但し物により前巾は三分位つめる時もあります衽巾も普通は上着と同じ巾ですが場合によりて一分狹くすることもあるのです。男服もこれと同じ理ですから略します。

◎女長襦袢

○巾一尺三寸長さ一丈六尺七寸五分の布にて袖丈一尺六寸前下り八分の女長襦袢の裁方及積り方は次の樣に致します。

○積り方は　袖丈の四倍と前下りの八分とを總丈より減じ其殘りを三にて除すれば後丈を得。後丈に前下りの八分を加へたものが前丈であります。但し衿は後身巾より取りて眞中へ足切を入るのです。

算式（總丈）1675−（袖丈）(16×4)−（前下り）8 ÷3=（後丈）34.2
（後丈）34.2+（前下り）.8=（前丈）35

○半衿の拵へ方は　裏衿緋縮緬ならば緋色木綿の剛く張りたる物を裏打となし又表の方も同じ色の物を裏に當て裏衿と表衿とを合せ巾を二寸程殘して衿山の方を縫ひ角は初め橫を折りて綴ぢ次に竪を折りて綴ぢ付け引返して躾糸を掛け衿巾の印をなし衿より五厘先きへ出して絎け付くるのであります。

◎西洋料理の食事心得（承前）

評議員　津田梅子

◎自分の相手の人、又隣席の人などと少しも談話を交ふることなく、始終沈默に打過ぐるは無愛相にて失禮です。食事々々の間には程よく談話を試むべきで在います。

◎食品を配附しまするに、總ての席に配附し終はるのを待たずとも、食事に取りかゝりて差支なしといふことに、今は成ッて居ります。これは多數の客の時など、總てに配附し終はるのを待て居ましては、羹の冷ることもあり、折角の好風味を損ずることがあるからで在いませう。己れの處に配附し來るや否や、眞先に取りかゝるなどは勿論宜しくは在いませんが、大抵の折を見計らひて、喫べて宜しいので在います。

◎一通りの料理が出終ひましてのち、甘き菓子が出、其次ぎに水菓子が出るのですが、此時は水を入れたる器と小さき手巾とを持ち來るもので在います。水菓子の皮を剝ぎて喫べ終へましたらば、其水にて一寸指尖を洗ひ、其手巾にて拭ひてよろしう在います。

◎食事終へなば、膝上の食巾を取りて食卓上に置くのですが、あまりに取亂し置くは宜しくありませんが、さりとて事々しく折疊みおくにも及びません。たゞ輕く二つ位に折りて、何となきやうにして置くのがよろしう在います。

◎酒の出ます習慣で在いましたならば、食事終はれるのち、女客は女主人の案內にて男子客を殘して食堂をたち去り、先きに座敷に參り居るので在います。酒が出ぬ席ですと退出の順序は入堂の時と先づ同じことです。

◎珈琲は座敷に參りましてのち出るのが常で在います。此時牛乳を添へて出さるゝことが在いますから、適意に注ぎて用ゐてよろしいのです。

◎食事終りて後、直ぐ辭し歸るのはよろしく在いません。我國の園遊會の折など、よくかゝる例を見るので在いますが、如何にも食ふために參りたるやうにて、甚だよろしからぬことで在います、少くとも三十分か四五十分間は留りて話などするので在います。又歸るのにも、當日の主賓の辭し歸るまでは待たなければなりません、主賓より前に歸るのは失禮です。（をはり）

◎日常の心得草

○疊に墨の付きたる時は　あわてゝ水などをかけて拭くときは、却て疊の目へ染み込みてよろしからず。故に墨のこぼれし時は、其儘にして置き、よく乾きし時に、新しい草履にてこすればよく落ちるなり。

○鐵の錆を防ぐには、黑鉛（鉛筆の心を作るもの）の細粉十五匁、流酸鉛六十五匁、流酸亞鉛十五匁、くんき二百四十匁を能く煉り合せ、鐵器に塗れば其錆を防ぐ事を得べし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●本號には例に從ひ肖像附錄を添ふ
◎前號第一頁副幹事長青木光子とあるは幹事青木光子の誤也

宮廷錄事

○天皇陛下　陛下には、去月三十日午前九時三十分御出門、陸軍中央幼年學校に行幸あらせられたり。其御模樣を記し奉らんに、臨御の節校長御先導便殿に入御、暫時御休憩、勅任官並に校長に拜謁をたまひ、順次左の課業を天覽に供へたり。
第一課演習のもの　卒業優等生徒之を行ふ　第二　卒業生徒の作文國書
右終て便殿に入御御休憩、校長御先導卒業證書授與式場に臨御、卒業證書授與式終て便殿に入御御休憩後還御あらせられたり。

○皇室誕生令　同令は五月廿九日に發布せられたり、左に全文をかゝぐ。
第一條　皇子の誕生には宮内大臣若は内大臣をして産殿に候せしむ
第二條　皇子誕生したるときは宮内大臣直に之を公告す
第三條　皇子誕生したるときは天皇之に名を命ず
第四條　皇子の命名は宮内大臣直に之を公告す
第五條　皇子の誕生命名は之を賢所皇靈殿神殿に奉告す
第六條　皇子誕生して五十日に至るときは賢所皇靈殿神殿に謁す但し事故あるときは其の期を延ぶることを得
第七條　皇族の子の誕生には宮内高等官を遣し産所に候せしむ但し場合に依り他の高等官を以て之に代ふることを得
第八條　皇太子皇太孫の子誕生したるときは天皇之に命ずべき名を賜ふ
第九條　親王王の子誕生したるときは直系尊屬之に名を命ず
第十條　皇太子皇太孫の子には第二條第四條第五條第六條の規定親王王の子には第二條第四條第六條の規定を准用す
第十一條　皇族の誕生命名に關する事項は圖書頭之を皇統譜に登錄す

○皇后陛下　には去にし五月三十一日教育品展覽會に行啓あらせられたり陛下には生徒の作品たる圖畫習字等は各郡區とも一綴り分づゝ御覽あらせられ、又裁縫品は知事より同一のものゝみ多數なる旨申上げたるに、品物は一樣なるも裁縫したる兒童は異なれば能く見ねばならぬ、との御沙汰あり。又雨中多數の生徒奉迎せるを御覽あそばされ、雨中にてかはゆさうなりと御沙汰あり。又御覽後斯く兒童の學藝の進歩する樣教授する教員の苦心盡力容易の事にあらさるべしとの有り難き御沙汰ありたるよしにて、皇室に於て常に教育に深く御留意遊さるゝこと有難き極みにぞある。

○皇太子殿下　殿下には目下東北地方行啓中にて各地の民情風俗を親しく御視察あらせられ、殊に御健康いとすぐれさせらるゝ趣にて、地方人民は眼前り殿下の尊容を拜し奉りて、欣喜感激一方ならずとぞ。

○東宮妃御分娩期　皇太子妃殿下御分娩期は本月十日より二十日の間なりとの事なるが、多分十五日以前と相成るべき趣にて産婆は晝夜出仕し、侍醫も御産所に伺候し居るよし。

○迪宮殿下　殿下のいとも御鋭敏に渡せられ殊に御壯健に御成育遊ばさるゝ事は前號に報道せし處なるが本年の御避暑地は、或は日光と申し、或は箱根とも伺ひたるが、愈々箱根御用邸にならせらるゝことに定まりしよし。

◎奧村五百子刀自遊說日記(承前)

五月十三日　愛知縣西春日井郡枇杷島町某寺院にて演說會を開く、聽衆三百餘名。
同　十四日　東春日井郡小牧町玉林寺に於て演說す、聽衆四百餘名にして其三分一は中流以上の婦人なり、赤十字社名古屋支部よりは松下憲氏出張せられ、當地警察署長及び町長は熱心に盡力せられたり。此夜同寺に一泊。
同　十五日　午前九時出立、同十一時丹羽郡布袋町に着す、此間三里餘道路凸凹甚しく刀自は屢下車步行す。同日午後一時同町高野山出張所にて演說會開會、聽衆四百餘名なりき。
同　十六日　午前八時布袋町出立、一ノ宮町を經て汽車にて葉栗郡黑田町に着し、午後二時同町德興寺に於て演說す。强雨にも拘はらず五百餘名の聽衆あり、郡長警察署長等大に盡力せられたるがため、當地富豪尾頭壯之亮氏夫人は直に特別會員に申込まれたり。又かの松下憲氏は名古屋支部にて必ず一万人の會員を募集せん旨を話れり。午後六時發列車にて名古屋に向ふ。
同　十七日　午後三時名古屋市東本願寺別院對面所に於て演說會を開く、聽衆約三千五百名滿場立錐の地なし、即時多數の入會者あり、又申込書を請求するもの三百餘名。去四日以來刀自と共に奔走せられたる山田病院長夫人奈津子女史は、今月中は勢援せらるゝ筈なりしが、俄に事故起りて歸縣せられたり。
同　十八日　午後一時當市各宗共立の大光院に於て演說會を開く、聽衆一千余名、刀自の演說の後、曹洞宗の僧侶贊成演說をなせり、即時二十餘名の入會者ありき。三井物産會社支店長守島夫人、縣立病院長熊谷夫人、後藤書記官夫人、志水、岡、鈴木、野村、名取、藤田、張、片野の各夫人等は、連日非常に奔走盡力せられたり。
同　十九日　午後七時當市伏見町なる近藤恒吉氏所有の新道敎會場に於て演說す、降雨にも拘はらず聽衆三千餘名なりき、是れ全く同氏が、刀自演說の趣を自費にて印刷し、各信徒間に配布したるに因るものにて、非常に盛會なりき。即時百餘名の入會申込あり、同氏夫人も一時金拾五圓寄贈せられたり。
同　廿日より廿一日迄　名古屋市滯在。
同　廿二日　午前八時名古屋市出發、同十一時一宮町に着し、午後一時より演說會を開く、聽衆八百餘名、即時三十餘名の入會者あり。赤十字社支部よりは佐々木復介氏出張せられ、寺島熊谷兩夫人も亦出張、當地の紳士間に勸誘を試みられたり。
同　廿三日　午前八時名古屋出發、同十一時海東郡津島町着、午後二時より同郡役所に於て演說す、降雨にも拘はらず四百餘名の來會者あり、同郡長、川淵村長、本多事務員及び寺島夫人等非常に盡力せられたり。此夜名古屋に歸る。
同　廿四日　午前八時名古屋出發、同十一時知多郡半田町着、午後一時より同町光照院に演說會を開く。當地佛教詰會幹事長猿重孝氏外七名にて、勸誘の印刷物を配布し、又た産婆養成所長小倉きく子、及び小鹿鶴彦氏夫人等の盡力により、元來白晝外出せざる當地婦人の習慣にも拘はらず、六百餘名の來會者あり。閉會後即時三拾貳名の入會者あり、郡長の言によれば、本郡は赤十字社々員も全縣十分の一を占め居る處にて、本會々員も一千名は募集すること容易なるべしと云ふ。
同　廿五日　午後一時同郡龜崎町淨願寺に於て演說會開會、聽衆六百餘名、中流以上の婦人多し、當地婦人會現在會員三十二名は悉く入會し、尙其他にも續々申込有りたり。
正誤　前號遊說日記中、五月七日岐阜縣とあるは、岐阜市滯在の誤。

○第五の組評議員會　去にし四日(水曜日)本部に於て開會、出席者は板垣絹子、阪井春子、岡部坦子、松前藤子、松前光子、松平須磨子、松平八百子、神山まさ子、伊澤千世子、山本たほ子、松村琴子、佐藤猶子、三輪田眞佐子、及び大分縣幹事長大久保榮子の諸夫人にて、本月中旬に開くべき評議員總會の件につき協議し午後四時半頃閉會せり。

◎評議員の移動　今般愛知縣支部幹事長沖男爵夫人辭任せられたるにつき、其後任に石川縣支部幹事長野村春子夫人囑托せられ、石川縣支部幹事長には同縣知事村上義雄氏夫人新たに推薦せられたり。

○副幹事長の增加　靜岡縣支部副幹事長に靜岡銀行頭取野崎氏夫人野崎すく子推薦せられたり。

◎廢兵院設置の議　府下各新聞は此程より本會に於て廢兵院設置の事を決議し、其位置も九段牛ヶ淵公園に定め、其筋へも地所拜借願を差出したるよしを報道し、尙佐藤將軍の廢兵院談をも某新聞に掲載せしが、本部に於ては規則第一條に掲ぐる如く、重大なる負傷者にして廢人に屬せる者を救護するを目的とするに付き此條項により豫てより此計畫はあれども。未だ議決を經たる譯にはあらず、公園拜借願を出せしは事實なるも、目下專ら計畫中に屬するを以て、詳細の事は追て發表する時機あるべし。

◎小笠原相談役の書信　本會相談役子爵小笠原長生氏より第二の書信佐藤少將宛にて來れり、左にかゝぐ。
四月三十日コロンボに到着五月三日ポートセツトに向ひ出發の筈に御座候、此段評議員諸君及奧村女史に御鳳聲被下度候、御承知の如くセイロンは釋尊出生の地ゆゑ奧村に見せ度存候。
コロンボにて　小笠原長生

◎廣島支部會の郡市長招待會　愛國婦人會廣島支部にては、去る二十五日午後二時より評議員山口男爵夫人、同一瀨夫人及副幹事長上田男爵夫人、其他の役員等幹事長江木夫人邸に會し、目下出廣中の各郡市長を招待し、愛國婦人會擴張の件に付協議する處あり。先づ江木夫人の挨拶あり、夫れより江木知事は右夫人に代りて、本會々員の日々增加し漸次盛大に赴くは、幹事以下會員の熱心の致す所なるも、畢竟各郡市長諸氏幇助の然らしむる所にして感謝に堪へず、併乍本縣は他府縣と異なり、明治廿七八年の戰役と云ひ、又明治三十三年北淸事變と云ひ、共に他に比類なき多數の戰病死者を出し、從て本會に於て救護すべき者も亦最も多數なるか故に、本縣は他府縣に率先して本會の隆盛を期せざる可からず、將來一層幹事を助け盡力ありたき旨を述べ、了りて茶菓の饗應ありきと云ふ。

◎贊助員の勸誘　今般會長より左の書面を各幹事長に通知ありたり。

本會規則第三條に一時金二十錢以上を納むる者を贊助員とすとあり此の精神は其人の境遇通常會員となる資格なきも其精神に於て本會の趣旨を熱心に贊成せられ自ら進み來らるゝものに限り本會は之れが精神を歡迎するものに付各支部に於ても此の意を諒せられ勸誘の緩急可然御取捨あらんこと切望す云々

兵庫　會員　大木せい
あしびきのやまのおくにも君が代は
くにをおもはぬ人やなからむ
同
國をおもふこゝろの花は山住の
しつか身にさへにほふうれしさ

愛國婦人の發行を賀ぎて
熊本　會員　淸水増枝子
日にそひて光りはいよゝはゆるなり
身のかゞみぞとたのむこのふみ

愛國婦人をよみて
東京　會員　阿部優子
ますらおの身にはあらねど大御代を
おもふ心は立も後れじ

愛國婦人會をことほぎまつりて
福岡　會員　村島常子
思ふどちをみな心を一すぢの
なはにやよらん國のちからに
同
をみなとて何かいとはむ紫の
やまとこゝろを心ともがな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎婦人論梗概

●江原素六氏の「婢僕に對する主婦の心得」　西洋にては主婦間の交際に於て、他家の押入戸棚を一見したしと請ふとあり、之に對して主婦は、自己の未熟にして甚だ面目なき旨を答へながら、客を案内するとが一つの交際となり居る也、今日我等の家屋は多くは亂雜て、なかく他人に示し得る程に整理せる處少し、英國の諺に、婦人の化學は澱粉を節して實糊を上手にするを主とし、婦人の地理學は家內の隅々までを知るを始めとすべしとは、大に味ふべき事で、家內整理の爲には、又婢僕に對する主婦の心得を要するものにして、第一は人物の選擇也、此選擇を誤れば經濟上に大影響あるは論なき事なるが、尙大なるものは小供との關係也。中流の家庭にては主人は勿論主婦も、交際又は業務の爲外出勝なれば、小供と最も長き時間を共にするものは婢僕なり、故に其感化亦甚深きを以て婢僕の選擇は頗る大問題也。第二は其使ひ方にして、如何によく人物を選擇したりとて、其使ひ方あしければ其甲斐なきは論無きなり。第三は金錢物品とともに適宜の取締をなすと肝要にて、若し之を放慢にして、偶多少の紛失を生ずるや、屢々之を咎むるなどは徒に惡情を害し、主婦の品位を墜すもの也。第四は信任也、人は必ず名譽心あり、信任は名譽の生ずる所也、故に人を待つに先づ信任を與ふれば、彼は名譽を感し、隨て責任を負すべし。彼れ責任を感ずるに至れば、同時に多少働き方に自由を與ふると必要也、さすれば銘々工夫して働きの捷徑を考へ、事務を敏活になし得て、其結果は瑣細の用務迄一々指圖するに勝ると萬々也。第五は婢僕と小供との關係にして、小供が婢僕を打擲し、或は罵詈しなどするに方り、婢僕は主人の前には柔順に忍耐するものなれば、直ちに小供の習慣となりて、婢僕なぞ已の慾心を滿たす器械の如く考へ、種々自儘の擧動をなし成長の後弱き者、卑しき者を侮辱し、衆と共にするの德義を缺くに至るものなれば、誠に注意すべき事なり。又主人の面前に柔順を粧ふ婢僕も、主人不在の時は、直に變じて虐主となる事をも忘るべからざるなり。第六は婢僕に對する輕蔑の行爲を愼む事にして、先づ奉公人は家政上必要ありて備ふものにして、憐まんとして養ふものにあらざる事を念頭に存して、常に彼に對して慈悲の情を有する事必要也、こは小供の見習にもなるとにて、其生涯の幸福の基ともなるもの也。又婢僕に對して柔和なる言葉を用ゐ、屢其勞をいたわり、其功を賞して其心を勵ましむると必要也。西洋にては要者が茶を持ち運りても、夫は之に對して極く輕く「サンクユー」と謝意を表するが常なれども、吾國にては一般に尊者が賤者に對するに、餘り傲慢過ぐる樣なり。第七は、小供の爲に徒らに婢僕を使用せざる事にして、今日中等以上の家庭に於ける如く、小供の起臥沐浴其他の細事迄、一々婢僕の手を煩はすは、其小供を柔弱ならしむる所以にして、他年人の長たるに方り、何事も人を煩はし已一人にては敏活に處置すると能はざるに至るべし。第八は婢僕を恐怒せしめざる事にて、朋友故舊を招きて相樂しまんとして、却て僕婢を叱咤して其怨みを受くる抔は最の至り也。殊に注意すべきは、婢僕には一日中多少自由の時間を與へて、自己の用務をなさしめ、或は主從團欒して興味ある浮世話をなし、又感化解說の助けとして、彼等の知德を進むる事に留意するを是也。云々

●日出國新聞記者の「少女適當の任務」　近來女子の職業大に開け前途益す有望なるは、世の薄命なる少女をして、職業に沈淪せずして自活の道を得しめ、且その父母の生計をも助くべき便利を與ふるものにて、社會の淫靡に奔る風を矯むる爲には、誠に喜ばしき現象なり。且女子は男子に比すれば、其性質柔順にして綿密なり、細微の事を勉めて倦怠せざるは、男子の及ぶべきにあらず、殊に實男と實女とを對比すれば、其甚しき差あるを見るべし。而して當時の少女は、概れ尋常小學校くらゐは卒業したるもの多ければ、其筆を執り文字を讀むとも、敢て實男に劣らざるべし。故にさし當り華族紳士の家に於て、漸次に圭闈の書生を廢して、之に代るに少女子を以てすべし。何となれば書生は常に主公の虎威を假り、實辭に怨懟を缺き來客に不快を感せしめ、爲に主公の德を損するとあり、之を少女子の温容の婉柔に愛嬌あるに比すれば、及ばさると遠し、且つ有爲の青年男子をして、徒らに圭闈の俗務に貴重の時間を亡失せしむるは、國家の爲に喜ぶべきにあらず。之に反して女子は貴顯紳士の家に見習勤をなすとは嫁期に及びて利用すべき履歷ともなるの利あり。次に諸官衙諸會社（郡區役所等迄）の給仕をも、すべて少女を以て今の實男に代用すべし。即ち少女をして束髮に海老茶袴、又は質素なる洋服を用ゐしめば足れり、決して官衙會社の體面を害せず、而て其給料は實男よりも廉價なるべく、其用を辨ずるに至りては、必ず少女三人を以て實男の五人に比例すべき程の差異あらん。云々

●山田宮城縣視學官の「女子着袴問題」　女子の着袴問題は風俗上の問題にして、學校行政問題とは劃然區別せざるべからず。凡そ社會の風俗を觀察するに、下流には必要、中流には便利、上流には躰裁との三觀念あるを忘るべからず。而して着袴の如きは果して下流社會に必要なる乎、思ふに社會の下流は未だ之を必要視せざる也。而して今日着袴の行はるゝ部分如何と云ふに、學校に於て學を受くるものに限ると云ふも不可なし、即ち其便利とする範圍は狹小なりと云はざるを得ず。是を行政上より見ん乎、義務教育なるものは最貧者にても就學し得るを以て主眼とせざるべからず、而て當局者は今日此最貧者までも抑壓して着袴を實行し得べき權能ありや。要するに此問題は行政上に於て義務教育と衝突するものなれば、之を度外に措くと云はんよりも、寧ろ積極的に制止せざるべからざる也。云々

◎婦人會彙報

◎廣島縣甲奴郡婦人會の狀況　同會は該郡長稻垣氏の夫人によりて發起せられ、客年九月の創設なり。其の目的は同地方の婦女子時々相會して交誼を厚くし、智德を研磨し、兼て慈善の實行を期せるものなるが、目下會員百名內外に達し、創設以來會同をなすこと既に四回、其の都度點茶挿花女禮式等の講習をなし、或は教育家、醫師其他有德の士に乞うて、其の談話を聞くなど、會員の稗益實に尠なからず。又同會設立以來、會員相互訪問のことよく行はれ、從來地方の弊風たりし、所謂女の出不勝を打破したること著しく、殊に同地方に於ては、婦人の赤十字社員殆んと皆無の姿なりしもの、爾來續々入會者を生し、客秋以來、愛國婦人會員の募集あるや、又之れに應ずるもの多く、又は會員自ら贅費を省きて醵金をなすと共に、有志の寄附を募りて、或は弘前聯隊に於ける凍傷死者に、或は廣島市に於ける孤兒院に感化院に、或は野州の礦毒罹災民に、義捐寄附をなす等、社會公共慈善の事業に向て、大に同情を寄するの傾きを生し、會員相會するや悉く綿服を着して綺羅相競ふの弊風なく互に胸襟を披き和氣靄々として其の親睦の狀實に掬すへきものありと云ふ。

◎三島郡佛教婦人協會　大阪府下三島郡の東西本願寺派各寺院住職信徒等去五月十八日茨木別院に集會して吾が愛國婦人會員募集の件及び三島郡佛教婦人協會を愛國婦人會に合同の件に付協議したる由。

◎吉備婦人會　同會は去五月十八日岡山市總社町知新高等小學校に開催、來會者百三十餘名非常の盛會なりしと云ふ。

◎今治婦人會總會　去五月廿八日午後一時より愛媛縣今治高等女學校內に開會、出席者百二十餘名米國文學士原田助氏の演說ありたりと云ふ。

◎諏訪婦人會　去月十八日長野縣上諏訪町高島小學校に開會、來賓の主なるものには諏訪子爵同令夫人令嬢及び信濃每日新聞主幹山路愛山氏前フエリス女學校教頭巖野光多氏等あり來會者總じて一千餘名、諏訪子爵の道德に關する演說に次て山路氏は女子の勢力と題して(一)道德(二)風俗(三)財力(四)經濟の各項に對する女子の社會的勢力を最も通俗に詳說し二時間中に亘れり次に巖野氏は日本女子の長所（從順、貞操、獻身的精神）短所（義務心、獨立心、名譽心）を對比して平易簡潔に演述し次に茶話會に移り奏樂遊戯等和氣靄々の裡に閉會したる由。

◎高瀬婦人會　長野、北佐久郡高瀬婦人會も同日高瀬小學校內に開會、二百餘名の出席者ありたる由。

◎會津婦人會總會　昨年六月若松市有志婦人の設立にかゝる同會は去月廿八日同市滿福寺に於て創立一週年祝賀を兼ね總會を開きたるが來會者三百餘名なりき、因に同會の事業として若松尋常小學校の教室を借り每日曜兒守を教育すると決し近々着手すべしと云ふ。

◎高知市の婦人追悼會　高知市に於て此程有志者發企して故中岡幸子女史の追悼會を開きたる由なるが同女史の經歷を聞くに嘗て小學教員として教育界に名譽ありしのみならず廿七八年戰役の際は婦人團体を組織し幻燈會を開き義捐金を募集するなど公共の爲めに盡せし事勘なからざりし趣にて其德を慕うて來會せる者百七十餘名に及びたりしが頗る盛儀に式を終へたりと云ふ。

◎善行彙報

●栗塚省吾夫人の美擧　同夫人龍子氏は昨年以來本所横川町なる一家屋に其附近の勞働者の子女を收容し、一人の保姆に其訓導を托し、自分は每週二回宛監視せらるゝ由にて、目下其人員七人なれども、漸次擴張すべき方針なりと聞く。而して其費用は夫人が嘗て吾國に於ける各地方の婚禮風俗に關して ものせられたるものを米國にて發行して得られたる金員より支辨せらるゝ趣なり。

●安藤たも女の善行　安藤たも女は鹿兒島縣囎唹郡松山村の士族安藤長左衞門氏の長女にて、明治二十三年一月に生れ、明治廿二年八月父に從ひて、同縣川邊郡東加世田村小湊に移れり。父長左衞門はもとより田舍育ちにて、何一つ身に得たる藝能もなければ、只勞働によりて得たる實錢をもて一家三人の口を糊するに過ぎず、かゝるはかなき世帶なるに、不幸にもたも女七歳の時即ち明治廿九年の暮程、母こま女がいさゝかの病に臥しけるが、初めはさほどにもあるまじと思ひけるが、漸く惡しくなりゆきて、明くる年の春よりは、全身に痛みをさへ覺え、自らは起臥もならぬ重病に陷りぬ。三度の食さへ思ふにまかせぬを、ましてかゝる稼になりぬれば、長左衞門はいかにはせんと空しく思ひ煩ふのみ。此時たも女は八歳になりけるが、資性温順にして孝心深きものなれば、父に對ひて父上いかに貧苦の中なればとて徒らに憂ひ給はんも詮あるまじければ、いつもの如く稼ぎに出給へ、母上の看護はおのれゆめおろそかにはすまじきといひて、父の稼ぎに出でたる後は、自ら母の側よりきたなきものゝ事に至るまで、としゆかぬ身ながらもいとまめやかに介抱しけり。又母の常に被れる着物いたく破れたれば、いかにもして之を縫はんものをと思ひ、幼き時より母に手傳ひておほろげにも覺えたる機織のわざを、近所の娘に習ひて、普段の暇に織りなせる木綿縞一反を以てやうく一着一枚をこしらへ 母にまゐらせぬ。まことに其一反こそ賞めるものゝ千金にもかへ難きものなりけれ。又或時たも女が用達に出でんとして、竈の火を能く消して出で往くを、母は大にいぶかり何故ぞと尋ねけるに、これは後に再び焚きつけんはいかにも煩はしくあれど、もし火を過たんには、いたつき給ひて不自由なる母上いかにしたまふべき、いさゝかなりとも御怪我あらんには、實に悔ゆとも嘆くとも及ぶまじ。さればこれを慮りてなりと、答へければ、母はいたく其の孝心の深きに感じ、しばし病の苦きをも忘れて涙にむせびけりとぞ。又たも女は、母の病のやゝ瘥らぎける折を見ていひけるは、もし母上の病の愈りて元のまゝに復へらせたらん曉には、せめては尋常科なりとも卒業し得らるゝ樣學校に出だし給ひてよ、是れぞ吾身につきての願なると申し出でたりとぞ。あはれ、たも女が擧動を譽とて感ぜぬものなく、松山村有志者凡そ百四十人は、醵金して金拾五圓九拾壹錢五厘を、たも女に贈り、村醫鮫島榮穂及鳳島益太郎の兩氏は、各拾圓の藥價を擧げて施與し其孝心を感賞せり。尙其筋より賞金を下賜して其孝順のほどを旌表せられぬ。

●老媼受賞　賞勳局にて左の旌表ありたり

鹿兒島縣士族四野源右衞門祖母
四野ヘル（八十一）

資性温順貞淑歸嫁以來祖父母及姑に孝事し能く婦道を盡す始め夫家衰頽の餘を受け家運振はず舅父心氣濁變するや婉容和悅克く老心を慰藉し質素勤儉專ら家政を整理し夫を助けて舊業を挽回せしめ尋て姑の病に侍し看護懇到未だ嘗て一人を動かす殊に夫及長男の相踵で歿するや幼孫即現戶主を扶け保育を盡して日夜業務に勵精し叉克く夙に兒孫を訓誨して力を慈惠公益に致さしむ今や年齡八旬の壽域を越ゆるも敢て懈怠せず操守數十年一日の如し閫門粹貞鄕閭其篤行を稱す洵に奇特とす依て勅定の綬褒章を賜ひ其德行を表彰す

●海外彙報

●女兒と男兒の觀察點　此頃獨逸南部地方に於ける小學校の教師、女兒と男兒との觀察點を試驗せんと欲し、特に容貌奇麗なる一人の男子を雇ひ來り、之に勞働者の衣服を着けさせて一室に入れ置き、扨て先づ女兒生徒をして其前を通らしめ、次に男生徒をして通過せしめたる後ち、右の男女に付見たる處を記せよと命じたるに、女生徒の殆んど八分方は男の着物のことのみに就て見る所を記し、着物と容貌兩方に付て見る所を記したるは僅かに殘りの二分に過ぎざりしに、男生徒の方は全く之と反對にて、其七分方は男の容貌のみにつき見る所を記し、衣服と容貌兩方に付て記したるは殘の三分なりきと云ふ。

●戲の結婚正式の結婚と成る　米國紐育州のヨンカースにて去月猶太人の宴會あり、來會者男女凡そ二百人にして非常の盛會なりしが、餘興なるとき來會者の一人は來會者一同にて戯れの結婚式を行はんと發議したるに、面白き新趣向なりとて一同の贊成する所となり、來會せる男女各々戯れに夫婦となり、猶太牧師の說を交換して玆に凡そ百組の新夫婦出來たるが、後に猶太牧師の說を聞けば、こは同宗教上正當の結婚と認むべきものなりとの事にて、既に結婚して夫あり妻あるものは驚くなりて驚く事一方ならず、裁判所に向て今回の結婚の取消を求むべしと狼狽するもあり中には之を好機會として眞の結婚を執行したるもあり、冗談に取結びたる結婚が眞實となりたるため、一時大騷動を惹き起したりと。

●蛙婦人の胃中に住む　近頃米國紐育に於て一婦人の胃中より一匹の生きたる蛙を取出したる珍談あり、婦人は名をアダ、セーブルッケと呼び。三年前頃りに胃痛を訴へ、是れは普通の痛にあらず必らず何物か生活し居るに相違なしと騷ぎ立てたり。左れど一種の神經なりと無造作に看過くるものありしが、月日を經るに從ひ、胃痛は彌增しに加はるゝのみか、食慾も非常にして通例婦人の要する食物の三倍を食し、又睡眠も健康人の如く穩かならず、夜中時を擇ばず起き出でゝは腹中の動物を養ふなりとて、牛乳又はサイダーを飲むこと珍らしからず、而して此に怪しむべきは、婦人の充分に食し終りたる後は胃中の怪物も自から靜穩に復し、痛みも自然止むを例とし、今より一個年前には怪物は、漸く生長して、腹の上より手にて捫り得らるゝほどゝなり、之を擺まんとすれば忽ち逃げて位置を換へたりとぞ。然るに此程ラルフハイトと云ふ醫師の診察を求むることゝなり。氏は篤と診察したる後ち、何物とも判斷し難けれど、先づX光線にて試驗するの必要ありと申出で、X光線を試みしに、其結果として胃中に大なる黑き物の存在を發見したり。其何物たるやは素より斷定する能はざれども、現に內に一種の異物なることだけを確めしかば、何は兎もあれ之を取去らざるべからず。然らざれば患者は死去するか又は發狂すべしと述べ、其後一個月許りを經て、再び病院に到り。愈々手術を乞ひ。先づ胃を開き見たるに、異しきかな其中に長さ五吋位の蛙一匹住み居りて、胃の外に取出されたる後ちも、尙ほ數時間は生息し、今はアルコールに漬けられて病院に保存せられ、又婦人は手術後の經過甚だ好良にして、遠からず健康舊に復すべしといへり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新に入會せられたる愛國婦人會會員の君だちに告ぐ

本誌は愛國婦人會の囑托を受け、同會の機關として發行するものにつき、全國一般の會員諸君へ配布し、購讀を願ひ試み候。何卒引續き御愛讀下され、且つ陸續御投書下されたく、偏に願ひ上げ候。

本誌は會員相互に、誠意以て國に對する婦人の務に就きて、研究し、會の趣旨を普及せしめんとて、發行するものに候へば、世間普通の營業的刊行物と其撰を異にし、金錢の利益を貪るものにはこれ無く、會計の收支相償ひ、永續し得るだけにて事足るものに候。

本誌は愛國婦人會と會計を別にし、成るたけ費用を節し、主幹に於いて勞力を寄附し、且つ主幹が所有に係る大日本女學會事務所の一部を無料にて發行所に充て居候次第に付き、會員諸君に於いても、本誌の永續を得る樣、成るべく御愛讀下されたく、懇請の至に候。かしこ。

東京市麴町區下二番町三十七番地
大日本女學會內愛國婦人發行所
愛國婦人主幹　山澤俊夫

正四位勳三等醫學博士　三宅秀先生著
大日本女學會發行　日本女子大學校教科書

家事衛生

總クロース綴ぢ金文字入り菊判二百四十頁定價金六十錢郵稅金六錢

此書は文部省學校衞生顧問內務省中央衞生會委員元醫科大學部長なる三宅博士が文部省の囑托により講義されたるものなり書中に衣服食物住居育兒看病の五篇ありて我國一般の民度に應じ何れの家にても實行に差支なき樣懇切に說示されたり世に類なき家庭主宰者の寶典なり

田邊和氣子刀自遺稿

此書は故田邊女史の令名を不朽に傳へんとて大日本女學會より紀念の爲に發行せられたるなり書中に裁縫茶活花の三篇あり是等の科目を說きたる書世に多けれども之を讀みて實際に講習し得らるるものは此書のみなりとの世評あり是れ畢竟女史が東京高等女學校華族女學校東京女學館大日本女學會等に於て多年授業法に熟練せられたりし結果なりといふ

●總クロース綴ぢ金文字入り菊判五百四十頁定價金壹圓郵稅金拾貳錢

大賣捌所　東京神田區一橋通町七　有斐閣

久津見蕨村先生著

家庭教育　子供のしつけ

●洋綴頗る美本●定價二十九錢●郵稅四錢

世の父母兄姉たる者の大事中の大事、人の子女教育の事を等閑に附するを遺憾とせられたる著者が多年の實驗に依り最も平易通俗に家庭教育の仕方を說示せられたる者なれば新日本の父母兄姉は勿論學校と家庭の連絡に意を注ぐ教育家は是非精讀せざるべからざる良書なり

發行所　東京日本橋箔屋町十六　前川文榮閣

精製香油　みつば油　●一合二十錢　●同瓶二十五錢
上等髮油　美津波油　●一合三十錢　●同瓶三十五錢
貴婦人用　三ツ葉油　●一合五十錢　●同瓶九十五錢

●髮の粘りを去り●けあしをはやめ●頭痛逆上を治し●毛を洗はざるもつやをだす●くせをとる●ちりをよくわかつず

本舖　麴町平河町一ノ六　電話番町九一五番　三葉商會

鳩山春子女史序　今井完三著

婦人と社交

定價廿五錢　郵稅金四錢

再版出來

▲國民新聞評　婦人問題に伴れて此書の公にされしも自然の勢なるべし吾邦の婦女子は由來社交に拙なく近來二三の人の先導に依て稍や研究者の範圍を弘めたれとも尙知るへき事多く聞くへき事多し著者玆に見るありて婦人と社交との利害を明別し又た社交策の修養法を示す是非一讀の價値あり

▲朝日新聞評　女は家に居て內政の事を掌るへきもの必ず世間に出しやばるものにあらずといひしは四十年以前の昔の事今はかかる理窟を唱へしとて第一之れに甘んじ居る女もあらざるへし（中略）婦人と社交の關係を論ずるも其必要と存ずるなり本書は歐米各國婦人の狀態より女子社交利害及修養法等を親切に論したもの云々

▲福岡日々新聞評　歐米の社交は婦人に因りて成ると言ふも誣言に非らず其婦人の社交界に於ける勢力以て知るへき也（中略）本會は婦人の社交に於ける地位より其狀態利害修養を說きたるもの荷くも將來日本の文明を進るの一端として社交のために盡さんとする婦人は須く一讀すべし

▲萬朝報評　日本女子社交の狀態を觀察し夫れと對照する爲め歐米女子の狀態を敘述し女子社交の利弊を見たる後終りに社交の修養を說けり（中略）書中又多少の用意ありて一讀の値あり

發兌元　東京神田美土代町三丁目十六地　集成館

賣捌所上田屋　東京堂　東海堂　北隆館　大阪盛文館及其他

●誠實を旨とし愛國婦人新聞の特約販賣致候
●愛國婦人賣捌希望の向は申込有之度候

業務擴張　書籍雜誌

何れの出版を不問　敏活勉強　取次販賣

東京神田表神保町　●東京堂●　電話本局二四八番

總裁小松大宮妃殿下副總裁鍋島侯爵夫人

推戴賛成員有栖川大妃殿下小松若宮妃殿下華頂宮妃殿下梨本宮妃殿下其他賛成貴婦人百餘名

大日本女學會

新學年を開き會員を募集す

●本會は明治二十八年の創立にて既に學年を改むること三回講習終了者一萬六千餘人を出せり●講義を囑托せる講師は華族女學校女子高等師範學校日本女子大學校等の諸教授及び其他博士學士等著名の專門家なり

本會は國家開明の本源たる女子教育の普及發達を圖らんが爲に女子必須の諸學科を揭げたる講義錄を發行し家庭を離れ難き女子をして居ながら通信教授を受けしめ且つ家庭を整ふる人の參考に資す仍て一般女子素養の程度に應じ高等簡易兩科を設くると左の如し

高等科（每月一回廿五日女學講義發行二個年終了束脩四拾錢月謝四拾錢紙數菊判參百頁）

○倫理坪內雄藏○禮法佐方鎮子○教育學安井哲子○兒童學高島平三郎○國文坂正臣○文法今泉定介○作文同○作歌大口鯛二○美辭學島村瀧太郎○漢文土屋弘○日本歷史大森金五郎○日本婦人列傳下田歌子○萬國歷史喜田貞吉○日本地理同○萬國地理同○地文脇水鐵五郎○理化同○算術上野濟○博物津田梅子○生理衞生三宅秀○家事衛生同○小兒衞生三島通良○家事經濟後閑菊野○家庭教育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂正臣○繪畫武村千佐子○圖案同○美學島村瀧太郎○音樂東儀季治○挿花秀島成績○點茶松浦伯爵○園藝池田伴親○法制經濟岡戶鐙介○民法鳩山和夫○社會學岸本能武太○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

簡易科（每月一回五日女學講義發行二個年終了束脩貳拾錢月謝貳拾錢紙數同百五十頁）

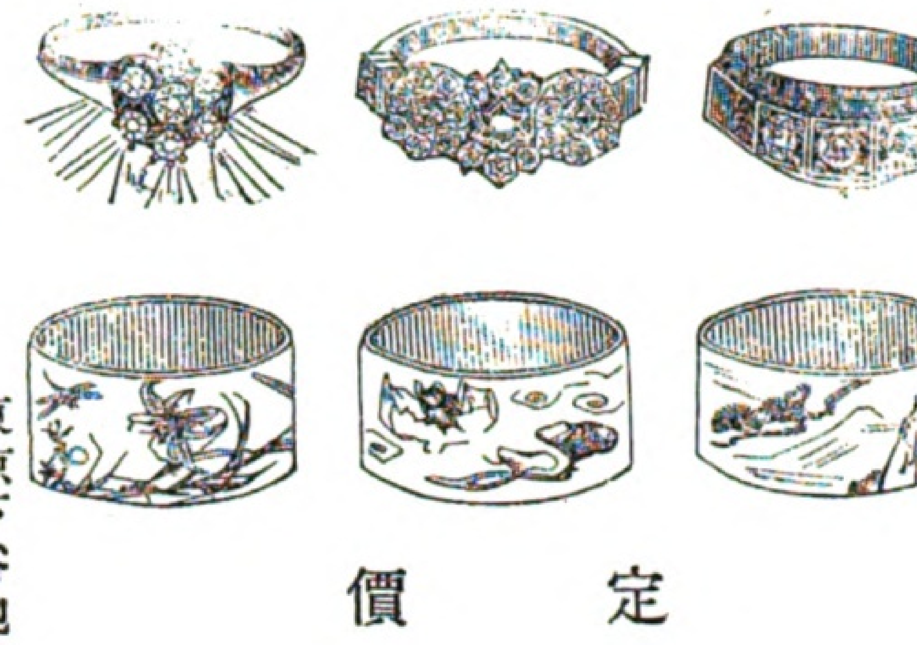
○修身談本會編纂○禮法佐方鎮子○國文同○作文今泉定介○漢文土屋弘○日本歷史大森金五郎○日本地理喜田貞吉○算術上野伊志子○博物小此木忠七郎○理化脇水鐵五郎○生理衞生三宅秀○家事綱要後閑菊野○家庭教育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂正臣○圖畫武村千佐子○史傳下田歌子○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

●會則は端書にて請求あり次第送呈す●束脩月謝を添へ申込あれば假入會を許し直に送本すべし

昨年十一月新學年開始　七巻迄發行　初巻より缺本なし

東京麴町下二番町三七（電話番町壹參參○）大日本女學會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



美術金製指環

定價 金五圓以上餘は御好に應じ調製可申候

玉寶堂 東京下谷池之端仲町 飯塚伊兵衛

電話本局 特九百六拾五番 一千二百四拾四番

婦人ふるちの藥

定價一貼五錢三貼十四錢五貼廿三錢七貼三十二錢

一此藥劑は婦人血の道一切の藥にして清血を補ひ古血をめぐらすをかんようにして少しも脾胃にさわるとなく血を下すにてはなく血をみちびき通ずる藥なり第一月々めぐり少き婦人はたッぷりと見るなり數年古血滯りある婦人は其のふるちのかたまり殘らずつうずるなり●○南まけづつう目まひによし○ふるちとゝこほり○ながち○しらち○手あしゝびれ○血しやく○ひゑるときさしこみいたむに功あり○むねこしいたみ○つぎむしによし○さんごあとはらのいたみはいかほどつよきいたみにても一ト包にて功あり○さんごわるちのとどこほりに用ひて功あり○猶能書にくわしくしるす

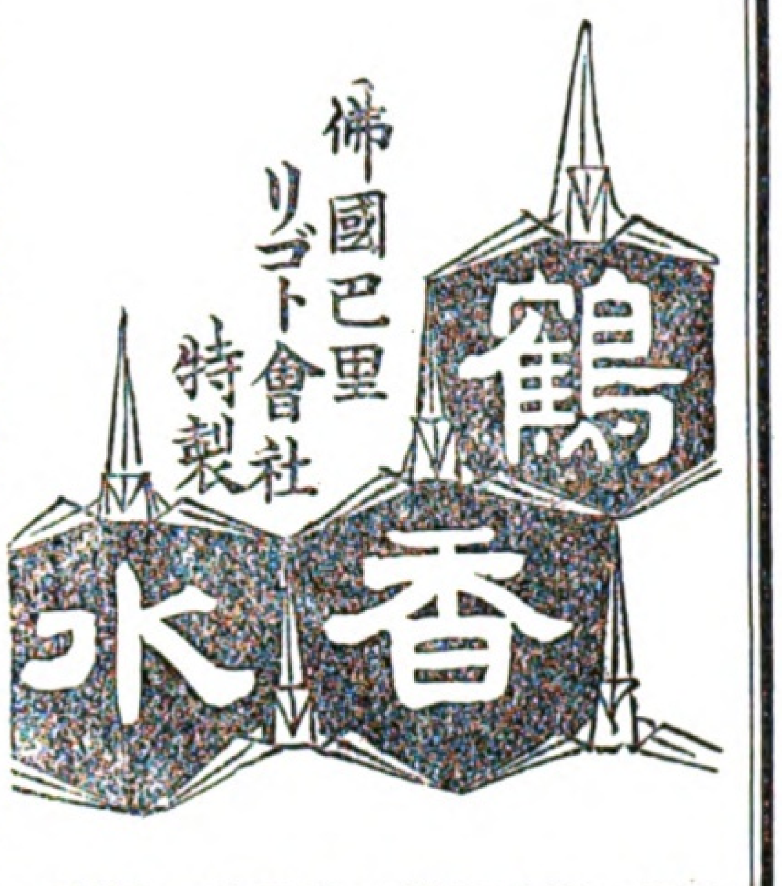
本家製藥所 東京市本所區東兩國橫網町一丁目 吉 齒磨店 伊勢吉本店 (電話浪花二一七五八)

ヴワイヲレット製 壽美花おしろい 伊蓮壹堂吉製

正價 大瓶二十錢 小瓶十二錢 定價 大瓶廿五錢 中瓶十五錢 小瓶十錢

西洋色白くする洗劑 壽美花あらひ粉 東京兩國 伊勢吉 壽美花堂

定價綠藍紅彩蝶畫ひ鑵詰六錢五厘ホツクス入三錢袋入壹錢



佛國巴里リゴト會社特製

全國西洋小間物化粧品店ニ販賣ス

歐米雜貨輸入卸商 大崎組商會

輸入元 東京日本橋區具足町 大阪東區安土町

夏半ゑり帶揚類 新柄友僊絞り形縫

絽○絹緬○紋鹽瀨○染形○帶片側○組絞り兵兒帶○穀模樣け出し○別織染下メ○絽手綱○絞り美人紐

新染 崩 浴衣地 向○木綿緬眞岡小紋中形染意氣高尚○雀形ゑり治形まげ入

ゑり治 園田商店 新橋竹川町十二番地本店 新橋詰帝國博品館內支店 電話新橋二千二十七番

○文學士 指原安三氏著 新編女大學 全貳冊 定價六拾錢

○本社編輯所編 女子新論 全壹冊 定價七拾五錢

○信濃教育會編纂 子守教育法 全壹冊 定價參拾錢

○華族女學校學監下田歌子女史著●文部省檢定濟 新選家政學 全貳冊 定價九十五錢

○塚本濱子女史著◎文部省檢定濟 家事教本 全壹冊 定價七拾錢

○日本赤十字社醫員北島研三氏著 處女衞生 全壹冊 定價 錢

●各特約販賣店へ差出しあれば澤山御求を希上候

發行所 東京市日本橋區本町三丁目十七 金港堂書籍株式會社

◎各宗本山名所圖會創刊◎

石倉翠葉君著 本派本願寺名所圖會 (製本既成發賣)

全一冊 優美本紙三百八十餘頁 挿畫三十五枚 正價金六十錢 郵稅金十錢

口繪

卷頭 孝明天皇、後小松天皇、後土御門天皇の御宸翰 正親町天皇女房の奉書●阿彌陀堂●大師堂●紫明の間●大玄關●鴻の間●菊の間と雀の間●裝束の間●浪の間●鴻の間の庭園●使門●玄關門●門前の總景●轉輪藏●語合の松●滴翠園衡閣門●飛雲閣●歌仙の間●八景の間●黃鶴臺の浴室●龍背橋と滄浪池●醒眠泉●乾亭主人●豪家●九重寶塔●澆花亭●嘯月坡と夜光石●大谷本廟の唐門と鼓樓●著明堂●山科別院●西山別院●築地別院●佛敎大學と布哇布敎場等

眞宗本派本願寺は開基既に六百餘年を經其由緖沿革は我國歷史上偉大なる關係を有するも而も未だ其詳細を世に公にせられずに爲めに史家となく信徒となく大に之を遺憾とせしが著者多年の希望は茲に各宗本山の寺誌を編述するの好機を得たるを以て先づ親しく本山に詣でゝ滯在數旬本山開基以來の沿革は素より寶物舊記傳說に至る迄詳細編述したれば史家好參考書たるは勿論信徒諸君が座右欠くべからざる稀有の珍寶たるなり

續刊◎ ●大谷派本願寺名所圖會●佛光寺名所圖會●高野山名所圖會●身延山名所圖會●日光名所圖會●成田山名所圖會●善光寺名所圖會等

發兌元 東京日本橋區本町三丁目 博文館

(登錄商標)

佛國大博覽會賞牌受領

博覽會 賜賞牌 東京 東兩國橫網町

今古改正 寶香 齒磨

伊勢屋吉次郎謹製

專賣特許

東京よし町 佐竹組東京店 電話浪花一五六

本舖 東京日本橋區橫山町十三番 佐野大和堂

總裁 小松大宮妃殿下 副總裁 鍋島侯爵令夫人

大日本女學會發行 東京麴町區下二番町三七

第二卷第五號發兌

(卷首)贊成員大隈伯爵夫人肖像(論說)ビスマーク公の家庭、獨逸特命全權公使アコー・ヴエリー●敎育者としての婦人、中島半次郎●室內衞生、高木醫學博士(學藝)和書解題、喜田文學士●數理に關する地理の話、上野淸●明治維新の原動力、津田貢●兒童の言語、梅澤和軒●作文批評、●今泉定介●作歌批評、大口鯛二(修身)處女のしるべ、尾上文學士(齊家)婚禮次第、佐方鎭子●女のつとめ、故田邊和氣子●家庭遊戲、西川政憲●點茶、松浦伯爵(世務)經濟談、伊藤秋南●各地產業の實況「尾張大根」(史傳)英女皇ヴヰクトリアの傳、下田歌子●ヴヰクトリア朝の二大女作家、中島孤島(譚艸)旗振の女、見玉花外(詞藻)のこるかをり、高崎男爵●五月五日宮中月次御歌會御兼題詠進●みやび會員詞藻(第二回競點歌集)(雜錄)露西亞巡遊の話、德富蘇峯●自稱代名詞に妾の字を用ゐる可否、白檮舍主人●國歌上の婦人、吉敷不壞生(彙報)要報十數件

壹冊定價拾五錢 全國無遞送料

大賣捌 東京神田區表神保町三 東京堂

◎特約販賣店

◎東京堂 神田區表神保町三番地

◎東海堂 京橋區銀座四丁目

明治三十五年六月十日發行(毎月十日廿五日二回)
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN